

防災バックアップ機能整備検討会議

委員意見要旨（抜粋）

令和3年3月

山梨県

○委員名簿

<有識者>

青山 侑	明治大学 名誉教授
指田 朝久	東京海上日動リスクコンサルティング株式会社 主幹研究員
武田 文男	政策研究大学院大学 防災・危機管理コースディレクター
田村 圭子	新潟大学危機管理本部危機管理室 教授
秦 康範	山梨大学大学院総合研究部 准教授
山下 博史	NPO法人 災害・防災ボランティア未来会 代表

<関係機関>

窪田 圭一	山梨県警察本部警備部長
大塚 慎太郎	陸上自衛隊第1特科隊長
横打 幹雄	山梨県消防長会会長

○開催状況

令和2年8月より、全4回開催

○検討事項

①県の防災力強化に係る検討

- ・ 防災施設の抱える地震・洪水・噴火災害リスクとこれに対するマネジメント策
- ・ 防災施設に求められる機能
- ・ 整備に係る条件・適地 等

②国の防災バックアップ機能の誘致の検討

- ・ 国の代替機能として必要な要件
安全性、容易性、迅速性、経済性等の評価指標の充足
- ・ 首都直下地震等大規模災害に備えた国の基幹的広域防災拠点に必要な機能
緊急災害対策本部予備施設機能、応援部隊活動拠点機能、物資集積・輸送拠点機能、災害医療支援機能 等

リニア（駅）に関する委員意見

○リニア駅と他の建造物との結節の検討

高架駅となるリニア駅と他の建造物との間のペDESTリアンデッキ、高架道路等による結節を検討すること。

○リニア駅ないし周辺施設への防災機能付加

リニア新駅（駅自体に付加するのが困難であれば、近接した位置）に、防災機能を持たせることが一つの付加価値になる。

例えば、備蓄機能や避難所機能などが考えられ、高架駅となるリニア駅と接続する高架道路等も活用し、万一の災害時、太陽光や風雨を凌げ、物資備蓄や避難所機能に供することができる空間を確保してはどうか。

駅利用者だけでなく、浸水が想定される周辺住民も避難できることを期待すると思われ、地域課題の解決に向け一体として整備を考えることが必要ではないか。

また、陸のアクセスとしてのリニア駅と空のアクセスとしてのヘリコプターがほぼ直結するような駅ビル等の整備も検討できるのではないか。

○駅での情報提供のあり方について

観光案内等に用いる、電光掲示板を含む情報提供スペースの充実が必要。災害時も、リアルタイムの情報提供を行うことで、駅利用者を含む多くの避難者の安心につながる。

その際は、外国からの観光客等も考慮し、多言語での情報提供が行えるようソフト面でも充実を図る必要がある。

○リニア駅の耐震化や停電対策及び周辺施設への防災拠点機能付与について

駅そのものの耐震化や停電に対する対策をしっかりと取ってもらう必要がある。

また、復旧、復興を考えると、頻繁に東京との往来が出てくると考えられ、リニア駅そのもの又は駅併設施設に広域的な防災拠点機能を持たせることが必要と考えられる。

○リニアの災害への強靱性の確保（地震、水害、火山等）

リニアを災害に強くすること、強靱性をもったものとして整備されるということをしつかりと求めていく必要がある。地震、水害、火山等色々な災害の際にも動くものとしてより一層の安全確保対策を踏まえた整備を進めるよう鉄道事業者に求めていくこと。

○リニアの貨物列車利用・駅の物流ターミナル利用・災害時ピストン輸送

リニアを貨物用に使うという選択肢もある。このため、リニア駅と高架で結節される道路は、周辺一般道路からアクセスでき、大型トラックの重量にも耐えられるようにしておき、近隣の防災拠点・物流施設等を活用しながら、駅を物流ターミナルとして利用することが有効ではないか。

また、災害時は特にリニアによるピストン輸送を可能にすることも鉄道事業者に求めてはどうか。